

## ガイダンス

### 1. 建築学と他の分野との関わり

→スライド参照

### 2. 建築環境工学のキーワード

→スライド参照

### 3. 環境共生学部で用意されている環境調整設備系科目の流れ

→スライド参照

### 4. 環境調整工学とは？

→スライド参照

## 5. 講義の予定

09月28日(月)	休講
10月05日(月)	第01回目 ガイダンス
10月12日(月)	第02回目 住環境調整の歴史(その1・森鷗外と建築環境工学) →祝日でも授業を実施
10月19日(月)	第03回目 住環境調整の歴史(その2・女性と住環境改善)
10月26日(月)	第04回目 住環境調整の歴史(その3・暖房の歴史)
11月02日(月)	第05回目 住環境調整の歴史(その4・冷房の歴史)
11月06日(金)	3限目 第06回目 建築のライフサイクルマネジメント 4限目 第07回目 明治大学 青井哲人先生の講演会(感想文提出:11月16日(月)) →居住環境調整工学実験と入れ替え
11月09日(月)	休講
11月16日(月)	第08回目 環境デザイン学と環境心理学
11月23日(月)	祝日のため授業なし
11月30日(月)	第09回目 住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題
12月07日(月)	第10回目 地域の気候(都市気候とヒートアイランド)
12月14日(月)	第11回目 地域の気候(クリマアトラスと都市計画への応用)
12月21日(月)	第12回目 地域の空気
01月11日(月)	祝日のため授業なし
01月18日(月)	第13回目 地域の音と振動
01月25日(月)	第14回目 地域の光と色
02月01日(月)	第15回目 全体のまとめ

注1) 上記のスケジュールは、あくまで予定です。検討を加えた結果、予定が大幅に変更になることもあります。十分注意してください。

注2) この講義では、居住環境の調整に関連する様々な話題を提供することを主眼としています。その中で、興味を持った部分について自分で積極的に学んで欲しいと考えています。したがって、復習、もしくは講義後の学習に力を入れて下さい。ただし、毎回の講義の前に、講義のタイトルの中にある単語やキーワードを調べておくと、より理解が深まると考えられます。なお、教科書は特に指定していません。

6. 参考図書（順に、編著者名、書名、発行所、価格、熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報（[]内）。）

- 1) 今村仁美・田中美都著「図説 やさしい建築環境 第3版」（学芸出版社，2,800円＋税，「建築環境工学 I・II」（2年生担当，担当者：辻原）教科書）〔和書（2F），525.1||I 44, 0000364202〕
- 2) 田中俊六監修『最新 建築設備工学』（井上書院，3,200円＋税，「環境設備システム学」（3年生・前期担当，担当者：村田非常勤講師）教科書）〔シラバス環境（3F），528||Ta 84, 0000265145〕〔和書（2F），528||Ta 84, 0000314596〕
- 3) 福岡義隆編著『都市の風水土 都市環境学入門』（朝倉書店，3,500円＋税）〔シラバス環境（3F），519||F 82, 0000220148〕〔和書（2F），519||F 82, 0000221369, 0000221370〕〔書庫（4F），519||F 82, 0000250096〕
- 4) 都市環境学教材編集委員会編『都市環境学』（森北出版，3,200円＋税）〔シラバス環境（3F），518.8||To 72, 0000275609〕

また、講義に関するその他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せる予定です。図書館の所蔵情報も載せる予定ですので、できるだけ多くの文献に積極的に目を通すようにしてください。

7. 成績の評価

- 1) 講義終了後に提出してもらいミニレポートと最終レポートを総合して、評価します。定期試験は行わない予定です。
- 2) ミニレポートが3割程度、講演会への出席が1割程度、最終レポートが6割程度として評価します。細かな配分割合は変化させることもあります。
- 3) ミニレポートは、講義の最後に15分程度時間を設けて、記入してもらい予定です。講義の最初に課題案を提示する予定です。この課題に沿ってレポートを書いても良いですし、異なる課題で書いても結構です。あわせて講義の感想・意見・要望・質問などがあれば、それらも書いて下さい。なお、ミニレポートの記入にあたっては周囲の人々と意見交換をしても構いません。また、この時間中に書き切れない人は、当日中に担当者まで提出して下さい。
- 4) 他の講師の方の講演会の際には、A4判で1枚程度の感想文を、その次の講義の際に提出して下さい。感想文の提出を以て出席とします。また、感想文は講師の先生にもお渡しする予定です。

## 8. 辻原担当分の講義を行うに当たって

- ・シラバスの通り、この科目を履修する受講生の目標は、私達を取り囲む居住環境をより良くするためには、環境調整の立場からだけでも、数多くの問題を考える必要があることを理解し、自ら進んで問題解決に取り組む姿勢を身に付けることです。特に、自分で「考える」ことに取り組んで欲しいと考えています。
- ・シラバスで示した受講生の目標に沿って、この講義では、環境調整・設備分野に関連して、皆さんに知っておいてもらいたいと担当教員（辻原）が考える話題をできるだけ多く提供することを目的としています。したがって、それぞれの回の講義では、なかなか深い内容まで踏み込むことができません。そこで、配布資料には、数多くの様々な資料を載せるようにしています。自習の際の参考になるようにと考えてのことです。そのため、講義の際には触れない資料も出てきます。また、様々な観点からの参考文献も（図書館の所蔵情報を含めて）数多く配付資料に載せる予定です（担当教員（辻原）が、その内容に同意しかねるものも含まれています。ただし、一定程度内容が信頼できそうなものとはしています。）。担当教員（辻原）が提供する話題はあくまで「材料」に過ぎません。講義を聴いた後に、自ら、勉強を深めてもらうことを強く望みます。
- ・上記の趣旨から、配付資料は穴埋め式とはしていません。また、配付資料の枚数も多くなります。穴埋め式としないことについては、辻原担当の2年生配当の建築環境工学Ⅰ・Ⅱとは異なり、この講義では何かを覚えなければならないと言うことがあまりないこともあります。なお、大学の予算の関係から、カラーで印刷することは現在のところ不可能です。枚数が多いと感じる人や配付資料が不要だと感じる人は、申し出て下さい。何らかの対応をしたいと思います。
- ・講義では、パワーポイントを用います。スライドの内容と配付資料の内容が一致していることもあれば、あまり一致していないこともあります。また、配付資料の順番とスライドの順番がずれることもあります。これは、時間の都合上や最新の情報を提供するためにスライドの作成が後になることによります。特にこのような場合は、是非、配付資料の余白やノートなどにスライドの内容に関するメモを取り、自習の際の参考としてください。また、配付資料は前述のように今後の自習のための参考資料の意味もありますので、スライドを用いて説明しない内容もあります。逆に、ビジュアルに見てもらった方が良いものなどは、配付資料にはない内容でもスライドで提示することがあります。配付資料とスライドの性格の違いを考え、両者を見比べながら講義に参加し、配付資料の余白にメモを取るなどして対応してください。
- ・これまで説明したように、この講義で配付される配付使用は、パワーポイントのスライドを印刷する配付資料とは、性格が大きく異なります。配付資料にも様々なタイプのものがあります。
- ・これを機会に、是非メモを取る癖をつけてはいかがでしょうか。眠気防止にもなります。毎年、手を動かさないで眠くなると意見が見られますが、上記の点を考慮すれば、手を動かしてメ

メモを取る場面は数多くあるはずですが、自ら積極的に考えて、手を動かして下さい。なお、メモを取ってもらうことも考え、配付資料の印刷は片面にしてあります。

- ・眠気防止のためには、講義を聴いた後に、毎回必ず1つは何か質問やコメントをしようと考えながら、講義を聴くことも役に立ちます。その際には、講義の最後を書く感想・意見・要望などのためのミニレポートも活用してください。
- ・ノートを取ることを辻原から求めることはしませんが、ノートを取らないと講義の内容が頭に入らないという場合は、是非ノートを取るようにしてください。
- ・講義とは別に、できるだけ、皆さんの進路選択の参考となるような新聞記事、雑誌記事、書籍、資料、URLなども配布する予定です。4年間の大学生活も後半に入りました。そろそろ大学卒業後の進路を真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか？なお、配布する資料が読みにくい場合は、大塚嘱託職員に申し出て下さい。原本を見ることができます。
- ・「どこが大事かあまり理解できなかった。」や「ポイントが何かつかめない。」との意見があります。担当教員の説明の仕方にも問題があると思いますので、できる限りメリハリを付けるよう努力しますが、皆さんが接する情報の多くは、どこが大事か強調されていないものがほとんどです。また、聴く人の予備知識や経験のあるなしによって、同じ話を聴いたとしても、重要なポイントは異なってきます。自分自身で、どこが大切か、どこがポイントかをかぎ分ける訓練をしましょう。
- ・「以前の講義と重複しているものがある。」との意見がありますが、例え同じ内容を対象としていても、その内容へのアプローチが異なることがほとんどです。この点を理解してください。なお、担当教員が非常に重要だと考える内容については、同じ内容を同じように繰り返し説明することもあります。
- ・「具体的に何を学んだかよくわからない」のは、担当教員のプログラムの組み方にも問題があるとは思いますが、受講生本人の問題もあります。自分が知りたいと思うことだけを「教えられる」のが、大学の講義ではありません。この講義を聴いた上で、自ら問題点を探り出し、自分の手で解決していくのが、「学び」ではないのでしょうか。もはや3年生も後期です。与えられ、教えられるだけの状態から抜け出ませんか。
- ・「これとって何かを学んだという達成感をあまり感じられなかった」という意見がありますが、これまで述べてきたようにこの講義の狙いや性格を良く理解し、積極的に自ら学んでいこうとすれば、問題は解決するように思います。
- ・「この授業は必要なのか」という意見がありますが、担当教員としては、「皆さんに知っておいでもらいたい」と考える情報を提供するように努力したいと考えています。
- ・「ガイダンスで重複する部分があるのは無駄」との意見もありますが、中には、何度説明しても理解してもらえない人もいますし、初めて受講する学生もいる可能性もありますので、理解

してください。また、辻原としては、決まり事などは、その都度きちんと説明したいと考えています。

## 9. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/tyosei.html/tyosei.html>

上記の作業は、学生の皆さんの利便性を考えてのことですが、担当教員個人としては、 $+\alpha$ のサービスと考えています。欠席した場合などは、友人にコピーさせてもらうなど、皆さん各自で対応するのが本来の姿だと考えています。この点から、授業中に示すパワーポイントのスライドの内容についてはダウンロードできるようにはしていません。また、スライドの内容をダウンロードできるようにしないことについては、著作権法上の問題もあります。ただし、どうしてもスライドをプリントアウトしたものが欲しい、講義の最中にメモすることが不可能であった、などの要望があれば担当教員まで申し出て下さい。できる限り個別に対応したいと思います。

## 10. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。

教授・辻原万規彦

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南西角（407号室）

電話：096-321-6706, もしくは096-383-2929（内線492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

嘱託職員・大塚歌織

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南西角・辻原研究室／4階中央・大塚嘱託職員室

電話：096-383-2929（内線482（嘱託職員室）／内線492（辻原研））

e-mail：ootsuka-k@pu-kumamoto.ac.jp

## 11. 辻原担当分の講義を行う際のその他の留意事項

- 1) 担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するように努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、考慮します。ただし、その場合でも、レポートは必ず提出して下さい。
- 2) 講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）の今年度のオフィスアワーは火曜日3時限（12:50～14:20）の予定です（教務入試課教務班の掲示板などで再度確認して下さい。）が、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- 3) 講義は基本的には、開始のチャイムがなったと同時に開始する予定です。チャイムが鳴った時点ではできるかぎり着席し、遅刻をしないようにして下さい。一方、講義の進み具合によっては、講義の時間を延長することもあります。講義の延長はできるだけ避けるよう努力しますが、講義終了のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室しても結構です。ただし、講義時間の延長があり得ることに充分注意し、その後の予定を組んでください。
- 4) 講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。
- 5) 担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、おかしいと感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、講義終了後に提出してもらったミニレポートの欄外などに書くか、大塚嘱託職員に話すなどして指摘して下さい。性格については、一朝一夕ではなかなか直らないかもしれませんが、できるかぎり、改善するよう努力します。

## 12. レポートの作成にあたって

レポートは、人に読んでもらうためのものです。従って、自分で何を書いているのかわからないようなレポートは提出しないでください。レポートには必ず読み手があります。レポートの評価を行うのは、読み手です。書き手が評価を行うものではありません。

まず、第一に、読み手に理解してもらえるように、わかるように、書くことを心がけてください。

→さらに一步踏み込んで、読み手を納得させるためには、どのようなレポートを書けばいいのか、を考えてレポートを作成するように心がけて下さい。

この講義では、定期試験のかわりにレポート課題を出題する予定ですが、それまでにレポートの書き方について各自で充分検討し、習熟していることを強く望みます。

熊本県立大学 学術メディアセンター 図書館

(<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~tosho/index-j.html>) の『蔵書検索』で、「論文作法」をキーワードとして検索すると、論文やレポートを書く際に参考となる様々な本がでてきますので、参考にしてください。熊本県立大学 学術メディアセンター 図書館に所蔵されている本や辻原の知っている範囲では、例えば、以下のような本を、読んでみては如何でしょうか。

【入門編-学生生活の基本と共に】(順に、書名、編著者名、発行所、発行年月、価格、ISBN 番号、熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報 ([ ] 内)。以下同様。)

- 1) 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 第3版』(学習技術研究会編著，くろしお出版，2011年4月，1,800円＋税，ISBN:978-4-87424-510-1) [和書(2F), 377.15||G16, 0000350312]  
→初版(2002年発行)は [和書(2F), 377.15||G16, 0000261688] [書庫(4F), 377.15||G16, 0000261864]  
→改訂版(2006年発行)は [和書(2F), 377.15||G16, 0000311457]  
→改訂版第4刷(2008年発行)は [和書(2F), 377.15||G16, 0000327677]
- 2) 『広げる知の世界 大学でのまなびのレッスン』(北尾謙治ほか，ひつじ書房，2005年5月，1,600円＋税，ISBN:4-89476-242-0) [和書(2F), 377.15||Ki71, 0000293704]
- 3) 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』(松本茂・河野哲也，玉川大学出版部，2007年3月，1,400円＋税，ISBN:978-4-472-40343-9) [和書(2F), 002.7||Ma81, 0000309779]  
→改訂第2版(2015年3月，1,500円＋税，ISBN:978-4-472-40513-6)は [就活(1F), 002.7||Ma81, 0000366076]
- 4) 『情報と知識の海-現代を航海するための 知のナビゲーター』(中澤務・森貴史・本村康哲編，くろしお出版，2007年4月，1,800円＋税，ISBN:4-87424-372-5) [和書(2F), 377.15||N46, 0000309780]



【基礎編-1年生からのレポート作成のために】

- 5) 『講談社現代新書 2021 新版 大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康, 講談社, 2009年11月, 720円+税, ISBN: 978-4-06-288021-3) [文庫本(3F), 080||49||2021, 0000328004]  
→初版(講談社現代新書 1603, 2002年発行)は[文庫本(3F), 080||49||1603, 0000259322]
- 6) 『講談社現代新書 1677 インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』(小笠原喜康, 講談社, 2003年8月, 720円+税(在庫切れ), ISBN: 4-06-149677-8) [文庫本(3F), 080||49||1677, 0000273985] [書庫(4F), 080||49||1677, 0000284192]
- 7) 『レポート・論文・プレゼン スキルズ レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション』(石坂春秋, くろしお出版, 2003年3月, 1,400円+税, ISBN: 4-87424-273-1) [和書(3F), 816.5, 9000006625]
- 8) 『Wordを使った 大学生のための論文作成術 思考技術・情報処理技術を書く力へ』(佐良木昌, 明石書店, 2004年10月, 1,600円+税, ISBN: 4-7503-1983-X) [就活(1F), 816.5||Sa 69, 0000290926]
- 9) 『レポート・論文の書き方入門 [第3版]』((河野哲也, 慶應義塾大学出版会, 2002年12月, 1,000円+税, ISBN: 4-7664-0969-8) [和書(3F), 816.5||Ko 76, 0000285910]  
→初版(1997年発行)は[書庫(4F), 816.5, 9000002010]  
→改訂版(1998年発行)は[就活(1F), 816.5||Ko 76, 0000222982] [書庫(4F), 816.5||Ko 76, 0000252694]

【応用編-4年生での卒業論文も視野入れて】

- 10) 『平凡社新書 103 ぎりぎり合格への論文マニュアル』(山内志朗, 平凡社, 2001年9月, 700円+税, ISBN: 4-582-85103-7) [文庫本(3F), 080||H 51||103, 0000275301], [書庫(4F), 080||H 51||103, 0000270456]
- 11) 『NHK ブックス 1194 新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(戸田山和久, NHK出版, 2012年8月, 1,200円+税, ISBN: 978-4-14-091194-5) [就活(1F), 816.5||To 17, 0000352921]  
→初版(NHKブックス 954, 2002年発行)は[和書(3F), 816.5||To 17, 0000276644]
- 12) 『これで安心「卒論」ラクラク基本マニュアル 卒論応援団 2013』(澁谷恵宜, クラブハウス, 2012年5月, ¥1,600円+税, ISBN: 978-4-906496-47-1) [就活(1F), 816.5||Sh 23, 0000352920]  
→第2版(2003年発行)は[和書(3F), 816.5||Sh 23||2, 0000301480]
- 13) 『大学生と大学院生のための レポート・論文の書き方 第2版』(吉田健正, ナカニシヤ出版, 2004年4月, 1,500円+税, ISBN: 4-88848-868-1) [就活(1F), 816.5||Y 86,

0000290857]

→初版（1997年発行）は〔和書（3F）, 816.5||Y 86, 0000263004〕

- 14) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』（酒井聡樹，共立出版，2007年5月，1,800円＋税，ISBN：978-4-320-00574-7）〔和書（3F）, 816.5||Sa 29, 0000309758〕
- 15) 『学生・院生のための研究ハンドブック』（田代菊雄，大学教育出版，2001年5月，1,500円＋税（在庫切れ），ISBN：4-88730-437-4）〔和書（2F）, 002.7||Ta 93, 0000271825〕〔書庫（4F）, 002.7||Ta 93, 0000252692〕
- 16) 『サイエンス・ライティング入門』（落合洋文，ナカニシヤ出版，2007年3月，1,500円＋税，ISBN：978-4-7795-0139-5）〔和書（2F）, 407||0 15, 0000309920〕
- 17) 『建築系学生のための卒業論文の書き方』（山口廣・笠井芳夫・浅野平八，井上書院，2008年4月，1,800円＋税，ISBN：978-4-7530-1056-1）〔和書（2F）, 520.7||Y 24, 0000317372〕
- 18) 『論文はデザインだ！』（渡邊研司，彰国社，2008年5月，1,95円＋税，ISBN：978-4-395-24107-1）〔和書（2F）, 520.7||W 46, 0000317373〕〔書庫（4F）, 520.7||W 46, 0000314903〕

上記の全てに目を通す必要は全くありませんが，今後，4年生になって研究室に配属された際にも必要になるでしょうから，気に入ったものを1冊くらい手元に置いておくとよいと思います。

その他にも，いろいろな本がありますので，大学の売店（丸善）や下記の本屋などで探してみてください。

- 1) 紀伊國屋書店熊本光の森店（営業時間：10:00～22:00，年中無休）

〒869-1108 菊池郡菊陽町光の森7-33-1 ゆめタウン光の森内2F

電話：096-233-1700 FAX：096-233-1701

<http://www.kinokuniya.co.jp/c/store/Kumamoto-Hikari-no-Mori-Store/>

- 2) 紀伊國屋書店熊本はません店（営業時間：10:00～22:00，年中無休）

〒862-0965 熊本市南区田井島1-2-1 ゆめタウンはません3F

電話：096-377-1330 FAX：096-377-1339

<http://www.kinokuniya.co.jp/c/store/Kumamoto-Hamasen-Store/>

- 3) 蔦屋書店熊本三年坂（営業時間：09:00～深夜2:00）

〒860-0801 熊本市中央区安政町1-2

電話：096-212-9111 FAX：096-212-9890

<http://store-tsutaya.tsite.jp/storelocator/detail/8000.html>

- 4) 熊本大学生協の学生会館ショップ書籍・雑誌コーナー（営業時間：8:10～19:00（土日祝休み））

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-40-1

電話：096-343-6321 FAX：096-345-8239

<http://ha9.seikyoku.ne.jp/home/kumamoto-u/index.html>

→生活協同組合熊本インターカレッジコープアカデミアも参照

→→<http://kyushu.seikyoku.ne.jp/in-km/>

また、下記のホームページなどが参考になるかもしれません。その他に、自分でも、「レポート」、「書き方」などのキーワードで検索してみてください。大量に検索できるはずです。

<http://www.mycon10ts.com/linkall2.htm>

<http://www.mycon10ts.com/top.htm>

[http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write\\_paper/paper.html](http://www.ceser.hyogo-u.ac.jp/naritas/write_paper/paper.html)

<http://lapin.ic.h.kyoto-u.ac.jp/thesis.html>

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/~urakami/class.html>

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~shogo/informationliteracy/index.html>

[http://www.geocities.jp/chigasaki\\_rihabilitation/report.html](http://www.geocities.jp/chigasaki_rihabilitation/report.html)

<http://www.reportreport.jp/>

<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~oda/essay1.html>

<http://www.shouronbun.com/>

[http://www.sgu.ac.jp/eco/rp/eco\\_report00.html](http://www.sgu.ac.jp/eco/rp/eco_report00.html)

<http://www.report.gusoku.net/>

<http://www.ia.inf.shizuoka.ac.jp/~nomiyama/report.htm>

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~nakasumi/reportp.htm>

<http://www.thesis-report.com>

<http://yonosuke.net/eguchi/archives/587>

<http://www.happycampus.co.jp>

[http://asc.high.hokudai.ac.jp/learning\\_support/seminar/report.php](http://asc.high.hokudai.ac.jp/learning_support/seminar/report.php)

注) これらのサイトの内容については、自分の責任で確認して下さい。辻原自身が全ての内容を確認したわけではありません。